



実施者

《実施メンバー》千葉工業大学 情報科学部情報ネットワーク学科 助教 中川 泰宏
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授 加藤 和彦
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室

《協働パートナー》

【行政関係】南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ、教育委員会 子ども教育課、南房総市観光協会
【企業等】みねおかいきいき館（南房総市大井）、篠笛楽遂工房（群馬県）、合同会社いいもんだ（香取郡神崎町）
【市民団体等】南房総市大井区、大井里山保全協議会（南房総市大井）、新宿おはやし保存会（東金市）

1. 背景・目的

本プロジェクトは南房総市で広範囲に群生する篠竹の有効利用とその事業化を目的としている。具体的には伝統工芸品である篠笛としてのブランド化と素材としての篠竹の販売を目指している。このプロジェクトの活動は2018年度の「空き公共施設利用プロジェクト」に始まり、2020年度の「人材育成支援プロジェクト」を経て、2021年度に新たなプロジェクトとして独立した。南房総市には笛に向けた篠竹が広く自生している。篠笛の材料となる篠竹の採取地としては、すでに千葉工業大学の他のプロジェクトと協働活動を行っており、事業化が進めやすい南房総市大井地区を選んでいる。2018年度は地元区長の協力を経て、試験的に篠竹の採取を行い、篠笛への理解を深める活動として空き公共施設を利用した篠笛ワークショップを開催した。その後、継続的に篠竹の採取を行う中でノウハウを蓄積すると共に、篠笛の作成・演奏を行う篠笛ワークショップを市民向けに開催することで、篠笛に対する興味付けを行っている。現地体験館の体験イベントとして段階的に取り入れていくことで、地域事業の一つとしても定着しつつある。本稿では2021年度に活動した概要について報告する。

2. 活動内容

このプロジェクトは採取した篠竹を篠笛としてブランド化するとともに、篠竹を素材化して販売することを目指している。これまでの活動を通じて工程化した篠笛作成までの流れを表-1に示す。篠笛は直径2cm程度の太さを持つ篠竹を素材とする。そのため、篠笛の作成は竹林から篠竹を採取して、利用が可能な状態へと加工し、品質によって選別する必要がある。これらの工程は

大きく分けて、工程番号1～5番の篠竹の採取、工程番号6～7番の篠竹の保管、工程番号8～11番の篠笛の作成の3つの大工程に分類される。ここで、採取工程は、採取・切断・選定・煮沸・洗浄の5つの小工程に分けられ、保管工程は天日干し・陰干しの2つの小工程に分けられる。また、篠笛作成工程は、製管・調律・色塗・篠巻の4つの小工程に分けられる。持続可能な事業として篠竹の販売・利用するためには、様々なニーズを作る必要がある。そこで、本プロジェクトでは、篠笛向けに品質を揃えた篠竹を以下の4つの手段で販売・利用することを考えている。

- ① [愛好家向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ② [工房向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ③ [一般向け] 篠笛ワークショップでの利用
- ④ [一般向け] オリジナルブランドとしての篠笛の販売

現在、現地の体験館で③の用途が実現している。ワークショップのノウハウを現地へ移管することで、千葉工業大学を主体とした篠竹の採取から、みねおかいきいき館での販売、収益確保を目指した商業ベースの篠竹の採取へとフェーズが移行してきている。2022年度には愛好家向けの取り組みとして①の篠竹の販売を検討している。インターネット上での販売も視野に入れつつ、2022年1月採取分の篠竹からみねおかいきいき館での販売を検討している。また、②④の実現を目指して、プロジェクト開始直後から、篠笛を実際に作成・販売する篠笛楽遂工房の楽遂氏に協力を得ている。実際に工程番号1番から7番までは楽遂氏の指導を受けながら改善を行っており、継続的な篠竹の採取が行えるよう、採取場所の選定や採取方法、素材となる篠竹の選定方法など



図1 採取した篠竹（切断前）



図2 新たな篠林での篠竹採取

表-1 篠竹の採取から篠笛作成までの工程

No.	工程名	工程内容	日程
1	篠竹の採取	竹林から篠竹を採取します	1月
2	節の切断	採取した篠竹を節単位で切断します	2月
3	篠竹の選定	切断した篠竹から篠笛に利用できるものを選定します	
4	煮沸（油抜き）	選定した篠竹の油抜きと煮沸殺菌をします	
5	洗浄	煮沸した篠竹の汚れを落とします	
6	天日干し	篠竹の色抜きと篠竹の耐候性を確認します	3月
7	陰干し	陰干しによる長期の保存によって耐候性を確認します	1年以上
8	製管（初級講座）	篠竹に穴を空けて音がなるようにします	随時
9	調律（中級講座）	製管した篠笛の音を調律します	
10	色塗（上級講座）※予定	調律した篠笛に仕上げとして色を塗ります	
11	篠巻（上級講座）※予定	篠笛の割れ防止とデザインのために籐を巻きます	

域学協働の工夫！

★事業を後押しする行政との相互連携

★地域住民の協力と理解

★オンライン会議を利用した行政、団体との緊密な連携

★関係団体の相互利益につながる手法の模索

について指導を受けている。そのため、工房向けの販売となる②は篠笛楽遂工房への納品基準の確立を第1段階の目標に掲げている。

2021年度は表-2に示す活動を行なった。2021年度の篠竹採取として、2022年1月に2回の採取を行なった（図-1）。第1回の採取において、これまで利用してきた採取地の篠林の痩せが目立ってきたことから、他の採取地の開拓を行うことになり、第2回の採取では地元区長の協力の元、候補地を増やして採取を行った（図-2）。コロナ禍前は、小工程2番から6番までを各種団体スタッフ、学生スタッフの協力によって人海戦術で一度に取り組んでいた。しかし、2021年度は新型コロナウイルスの派生株であるデルタ株・オミクロン株の影響を受けて、活動の縮小を余儀なくされている。そのため、2022年2月20日に少人数で篠竹の切断を行い、その後の工程については状況を見ながら対応することとした。2021年度の篠笛ワークショップの開催は、取り組みの中で不特定多数の参加者が息を吹き、演奏する時間が生まれるため、感染者数が減った時期を選んでの開催となった。第1回は2021年12月11日（土）の開催とし、第2回の開催は2022年3月20日を計画している。第2回の開催は、第6波の影響を踏まえて開催の可否を判断する予定である。

感染対策の上、みねおかいきいき館で開催した第1回篠笛ワークショップでは、一般公募で集められた20名が参加した。この

表-2 2021年度実施スケジュール

No.	活動内容	日程	参加者
1	2021/12/11（土） 篠笛ワークショップ（第1回） （みねおか冬のワークショップ）	篠笛ワーク ショップ （第1回）	みねおかいきいき館 千葉工業大学 新宿おはやし保存会 体験者20名
2	2021/1/8（土）	篠竹採取 （第1回）	篠笛楽遂工房 千葉工業大学
3	2021/1/15（土）	篠竹採取 （第2回）	みねおかいきいき館 千葉工業大学 新宿おはやし保存会
4	2021/2/20（日）	篠竹切断	千葉工業大学 新宿おはやし保存会
5	2022/3/20（日） 予定	篠笛ワーク ショップ （第2回）	みねおかいきいき館 千葉工業大学 新宿おはやし保存会

ワークショップの講師には、新宿お囃子保存会会長の椿崇氏と同会に所属する千葉工業大学の中川が参加している。また、運営にはみねおかいきいき館と千葉工業大学加藤研究室が携わった。ワークショップの内容には小工程8番を実施している。ここで、参加者は自分の篠笛を電動ドリルを使って自分で作成し、自作の篠笛を利用して演奏体験を行なっている。このワークショップの様子を図-4から図-6に示す。この時、配布した楽譜には篠笛の演奏が容易に行える数字譜もつけており、自宅

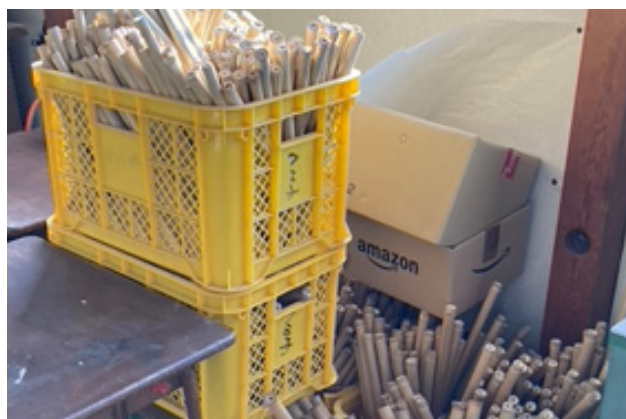


図 3 篠笛ワークショップに利用する篠竹 (2021 年 1 月採取分)



図-4 篠笛ワークショップ (第 1 回) 篠笛作成レクチャー



図-5 篠笛ワークショップ (第 1 回) 篠笛の作成



図-6 篠笛ワークショップ (第 1 回) お囃子曲の演奏

に帰った後も段階的にレベルアップトレーニングが行えるようにしている。また、伝統芸能により興味を持ってもらえるよう、お囃子の道具の展示や演奏方法のレクチャーも行い、多くの参加者からの好評を得た。今後の活動として、継続的なワークショップの実施や、より完成度を高める中級・上級ワークショップの開催についても要望が寄せられ、純粋に演奏を親しむ機会の提供についても要望があげられた。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

2018 年度からの継続的な取り組みにより、篠竹の採取から販売に至る工程がある程度確立しつつある。まだ、商業ベースに載せるには採取量は少ないが、みねおかいきいき館の体験イベントメニューの素材として自給体制が取れるようになったことから、今後一般向けの篠笛ワークショップでの利用が進むと考えられる。篠笛ワークショップの篠笛作成・演奏体験では多くの参加者から好評を得ていることから、この活動をより広げることにより、日本古来の古典楽器に対する興味づけにつながると考えられる。今後は、安房地域の伝統も織り交ぜたイベントへと発展させることにより、地域の伝統文化を知ってもらう機会の一つになると考えられる。

(2) 教育・研究面

ワークショップに参加した子どもたちの反応も良かったことから、より多くの子どもたちが参加する体験イベントへと発展させていくことにより、伝統芸能に興味を持つきっかけの一つになるものと考えられる。また、自身の手で楽器を作り、身近な資源を利用したものづくりを体験することで、道具に対する愛着を育み、資源に対して考えるきっかけにもつながると考えられる。

4. 今後の展開

これまでの取り組みで、篠竹の採取から利用までのサイクルについて一つの目処がついた。今後、一般を対象にした篠笛ワークショップを開催しつつ、参加者や愛好家に向けて 2021 年度採取分の篠竹を試験的に販売していくことで、素材としての篠竹の商品化に関する知見を集めたいと考えている。また、工房向けの納品を目指して採取する篠竹の品質をより高める方法を模索・共有し、採取効率を高めることで、商業化に必要なノウハウについても模索していく予定である。

* 表彰・マスコミ掲載など

特になし